

3年下

すがたをかえる大豆

渋谷区立富谷小学校 佐藤 綾花

単元の特徴・付けたい力

本単元は、「書くこと」につながる単元である。説明的文章「すがたをかえる大豆」を論の述べ方に注目して読み、理解したことを生かして、姿を変える食べ物についての説明文を書く。

「すがたをかえる大豆」で筆者は、初めに「大豆は、いろいろな食品にすがたをかえていることが多い」という話題を提示し、中で大豆を「おいしく食べるくふう」の例を写真と共に紹介している。最後の段落では「大豆のよいところに気づき、食事に取り入れてきた昔の人々のちえにおどろかされます。」と考えを述べている。筆者の考えが中の事例によって具体化されていることを、叙述をもとに捉える力を付けるために適している単元である。

「読むこと」の単元において考えと事例の関係を捉えたことを生かして、「書くこと」においては筆者の述べ方と同じように中で事例を挙げ、姿を変える食べ物について説明する文章を書く。自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する力を付けたい。

ICTの活用について

- ・本文を読む前に「ワーク」はじめにのクイズで、内容に興味をもたせ「読みたい」という気持ちを高める。
- ・「スタンプ」や「せん」の機能を使って構成を確かめる。
- ・「マイ黒板」を使って文章を比較し、説明の仕方の工夫に気付く。
- ・「ワーク」とらえよう・ふかめようで事例の挙げ方を捉える。

全時学習活動（全6時間）

時	主な学習活動	デジタル教科書活用
1	説明文を読む学習の見直しをもつ。 ・内容に興味をもつ。 ・感想を共有する。 ・学習課題「せつめいのしかたのくふうを見つけよう」と、学習計画を確かめる。	「ワーク」 〈大豆クイズ〉
2	「こうせいをたしかめよう。」 段落構成を確かめる。 ・「スタンプ」や「せん」の機能を使って、はじめ、中、終わりに分ける。 ・はじめ、中、終わりの大体の内容を確かめる。 ・「今日見つけたせつめいのくふう」（構成の工夫）をまとめる。	「ワーク」〈大体のないようにたしかめましよう。〉 「スタンプ」「せん」
3	「はじめとおわりのせつめいのしかたのくふうを見つけるために、くらべて読もう。」 ・「マイ黒板」に初めと終わりの段落を抜き出し、共通点や相違点を見つけながら読む。 ・「今日見つけたせつめいのくふう」（構成の工夫）をまとめる。	「マイ黒板」「せん」

★4	<p>「中のせつめいのしかたのくふうを見つけるために、中のれいをせいりして読もう。」 中であげられている例を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大豆がいくつの食品に変身しているか確かめる。 ・「おいしく食べるくふう」はいくつあるか確かめる。 ・「ワーク」に書き込みながら、「おいしく食べるくふう」と食品を整理する。 ・「今日見つけたせつめいのくふう」（構成の工夫）をまとめる。 	<p>「ワーク」〈筆者が「中」であげている具体的なれいを整理しましょう。〉 「せん」</p>
5	<p>「中のせつめいのしかたのくふうを見つけるために、れいのじゅんじょにちゅう目して読もう。」 筆者がなぜこのような順序で例を挙げているか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真を並び替え、どのような順序で事例を紹介していたか考える。 ・本文を読み、順番を表す言葉に注目して例の順序を確かめる。 ・「今日見つけたせつめいのくふう」（構成の工夫）をまとめる。 	<p>「ワーク」〈どんなじゅんじょで、れいをあげているかたしかめましょう。〉 「せん」</p>
6	<p>「筆者のせつめいのしかたで工夫されていたことをまとめよう。」 筆者の論の述べ方の工夫をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習で見つけてきた説明の仕方の工夫を振り返る。 ・自分が特に真似たいと思った工夫について、友達と考えを共有する。 	<p>「マイ黒板」 「せん」</p>

★4 時の指導計画例

<p>◇学習活動・指導上の留意点</p> <p>◆ICT・デジタル教科書の活用場面</p>	<p>◆児童の反応</p> <p>□先生の感想</p>
<p>導入：前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。</p> <p>◇前時に学習したことを振り返る。</p> <p>◆前時の書き込みがしてあるデジタル教科書の画面をスクリーンに提示し、児童が想起しやすくなるようにする。</p>  <p>◇中の説明の仕方の工夫を見つけるために、本時は中の例を整理する、ということをおさえる。</p>	<p>◆前時の学習で大切だったことを想起し、発言している。</p> <p>「前の時間は初めと終わりの段落を比べて読みました。」「初めは大豆のよくないところが書かれていたけど、終わりには大豆のよいところが書かれていました。」</p> <p>□児童は前時の自分の画面をスクリーンと見比べていた。教師の画面にはない書き込みについて付け加える発言をする児童もおり、具体的に振り返ることができたとする。</p> <p>◆本時の学習のめあてについて発言している。</p> <p>「今日は中の段落の工夫を見つけます。」</p>
<p>展開(1)：いくつかの例が挙げられているか確かめる。</p> <p>◇本文は食品ごとに段落が構成されているのではなく、工夫ごとに構成されていることを捉えることができるようにしたい。</p> <p>◇大豆が姿を変えている食品はいくつあるか確かめる。</p> <p>◆「せん」を使って食品名に印を付ける。(緑色の線)</p> <p>◇「おいしく食べるくふう」はいくつあるか確かめる。</p> <p>◆「せん」を使って食品名に印を付ける。(黄色の線)</p> 	<p>◆食品名に注目して緑色の線を引いている。</p> <p>◆「くふう」という言葉に注目して黄色の線を引いている。</p> <p>◆食品の数と工夫の数が異なることに関心をもち、異なっている理由を予想し始めている。「同じ仲間の食べ物があるから...」</p> <p>□初めから「例がいくつあるか」と問うと、混乱する児童もいると予想した。そのため、まずは大豆が変身している食品の数を線を引きながら数えさせ、その後「おいしく食べるくふう」を数えさせた。数の違いに気づいた児童は、なぜ違うのかということに関心をもちた。そのことにより、「ワークに書き込みながら整理する」という次の学習活動の目的意識をもたせることができたとする。</p>

展開(2)：「ワーク」に書き込みながら例を整理する。



◆「ワーク」（筆者が「中」であげている具体的な例をぬき出して整理しましょう。）に書き込む。

◆書き込んだ画面をペアで見せ合いながら、確かめる。

◆教師の「ワーク」の画面をスクリーンに映し、全体で確かめる。

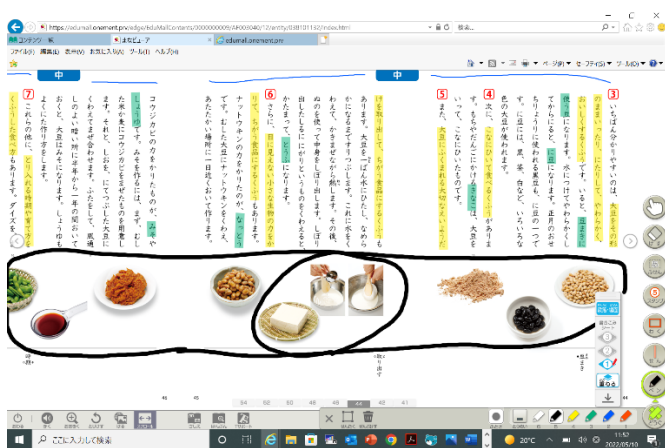
まとめ：学習を振り返り、次時の見通しをもつ。

◇「今日みつけたつめのくふう」をまとめる。

◇児童自身の言葉で工夫をまとめることで、「自分たちがまとめた工夫なんだ」という実感をもたせ、書くことにも生かしやすいようにする。

◇本時の振り返りを書き、次時の見通しをもつ。

◆本時に書き込みをした本文をスクリーンに映しておく。



◇児童は次時も中の説明の仕方の工夫を見つけることを捉えている。（学習計画を立てているため）本時に見つけた工夫以外にどのような工夫がありそうか予想させることで、次時の学習の見通しと意欲をもてるようにしたい。児童から予想がなければ、「写真」「順序」などのキーワードを挙げ、注目させるとよい。

◆複数の食品が挙げられている「おいしく食べるくふう」があることに気づいている。

□「ワーク」の枠の中に整理したことにより、複数の食品が挙げられている工夫があることを捉えやすくなったように感じる。この枠は、児童が説明文を書くときにも活用させたい。

◆今日見つけた説明の仕方の工夫をノートに書いている。「食べものではなく、くふうで分けて、だんらくをつくる。」「だんらくのさいしょに、くふうを書いていてわかりやすい。」

◆中の説明の仕方の工夫について、予想している。「写真も工夫してそう。」「豆腐だけ作り方のっている！」